

〈疾患〉

- A 1) 呼吸器感染症
- A 2) 尿路感染症
- A 3) 肺、胆道感染症
- A 4) 腸管感染症と細菌性食中毒
- A 5) インフルエンザ
- A 6) 単純ヘルペス
- A 7) 帯状疱疹
- A 8) カンジダ症
- A 9) 不明熱
- A 10) 敗血症（敗血症性ショック）
- B 11) ウイルス脳炎
- A 12) マイコプラズマ肺炎
- A 13) 後天性免疫不全症候群(AIDS)

5. 中毒並びに物理的原因による疾患

G I O：中毒並びに物理的原因において、速やかな原因の除去と救急対処法を実施できる知識と技術を身につける。

S B O：

- 1) 胃洗浄ができる。
- 2) 有機燐、カーバメート剤中毒に対して硫酸アトロピン、パムの適切な投与ができる。
- 3) 血漿交換療法、人工透析の適応並びに方法の概略を説明できる。

チェック

指導医

〈疾患〉

- A 1) 一酸化炭素中毒およびその他のガス中毒
- A 2) 農薬中毒  
(有機燐剤、有機塩素剤、除草剤中毒など)
- A 3) 睡眠剤、精神安定剤中毒
- A 4) アルコール中毒
- A 5) 熱中症

6. アレルギー及び自己免疫疾患

G I O：各種アレルギー疾患の救急に対処し、長期健康管理計画が作成できる知識と技能を身につける。

S B O：

- 1) アレルギー反応の分類を述べるができる。
- 2) 以下の検査の方法を理解し、結果の評価ができる。
  - a) 皮膚反応（皮内、搔皮、貼付）
  - b) 眼反応
  - c) 鼻粘膜反応
  - d) I g E、I g E R A S T 抗体測定
  - e) ツベルクリン反応、D N C B 皮膚反応
  - f) リウマチ因子
  - g) 抗核抗体、抗DNA抗体、抗R N P抗体、抗SSA抗体、抗SSB抗体、L E細胞現象
  - h) 免疫複合体
  - i) クームス試験
  - \* j) 抗甲状腺抗体、その他の抗臓器抗体など
  - \* k) 免疫電気泳動
- 3) 治療
  - a) アナフィラキシーショック、蕁麻疹、気管支喘息に対する薬物療法ができる。

- ステロイド、免疫抑制薬、免疫調整薬、非ステロイド抗炎症剤
- b) 減感作療法の方法と効果について述べることができる。
- c) 自己免疫疾患患者の生活指導ができる。

(疾患)

- A 1) 蕁麻疹
- A 2) 薬物アレルギー
- A 3) 全身性エリテマトーデス
- A 4) 慢性関節リウマチ
- A 5) 橋本病
- B 6) 皮膚筋炎
- B 7) 強皮症
- B 8) 結節性動脈周囲炎
- B 9) ペーチェット病
- B 10) 特発性血小板減少性紫斑病
- B 11) 限局性腸炎、潰瘍性大腸炎
- B 12) シェーグレン症候群

## 7. 腎・尿路

G I O : 詳細な病歴の聴取、正確な現症の把握、血圧、浮腫、尿所見、腎機能検査結果から糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、高血圧症の診断と治療方針が決定できる。尿路感染症の診断と治療ができるようになる。

S B O :

- 1) 腎機能の各要素を述べるができる。  
糸球体濾過機能、酸・塩基平衡調節、水電解質代謝、腎の分泌機能など
- 2) 腎機能検査を正確に実施し、結果を解釈できる。
- a) クリアランス (GFR、RPF、尿細管機能)
- b) PSP、濃縮、希釈試験、尿酸性化能
- c) 腎盂造影法
- d) レノグラフィー、腎エコー、CT
- 3) 腎血管造影、腎生検の適応を述べるができる。
- 4) 急性腎不全の診断と治療ができる。
- 5) 腎疾患における以下の治療法を適切に行い、患者の管理ができる。
- a) 利尿薬、降圧剤、ステロイド、免疫抑制剤、抗炎症薬、抗凝固薬など
- b) 食事療法
- c) 輸液療法
- d) 透析療法 (腹膜、血液)、血漿交換療法、血液吸着療法、持続血液濾過療法、腎移植の適応、合併症とその処置を概略説明できる。

(疾患)

- B 1) 急性糸球体腎炎
- B 2) 急速進行性糸球体腎炎
- A 3) 慢性糸球体腎炎
- A 4) IgA腎症
- A 5) 微少変化型ネフローゼ症候群
- A 6) 膜性腎症
- B 7) 膜性増殖性糸球体腎炎
- A 8) 腎不全 (急性、慢性)
- B 9) 腎、尿路結石
- A 10) 腎盂腎炎 (急性、慢性)
- A 11) 尿路感染症 (下部)
- B 12) 腎性糖尿
- B 13) 尿細管性アシドーシス
- B 14) 間質性腎炎
- B 15) 腎硬化症 (良性、悪性)
- B 16) 腎性高血圧

- B 17) 腎血管性高血圧
- B 18) ループス腎炎
- A 19) 糖尿病性腎症

8. 血液

G I O : 鉄欠乏性貧血を他の貧血より鑑別し、治療できる。骨髄増殖性疾患については、専門医に紹介することができるようになる。出血性素因の大きな鑑別と治療ができるようになる。

S B O :

研修医チェック 指導医

- |   |       |       |
|---|-------|-------|
| 1) 以下の如き検査法を確実に実施でき、主要な所見を指摘できる。  | _____ | _____ |
| a) 末梢血塗抹標本の作製と鏡検  | _____ | _____ |
| b) 骨髄穿刺、骨髄像   | _____ | _____ |
| 2) 以下の検査法の方法を理解し、主要所見を指摘できる。  | _____ | _____ |
| a) 赤沈   | _____ | _____ |
| b) 血球の細胞化学<br>ペルオキシダーゼ、アルカリフォスファターゼ、エラスターゼ、<br>PAS反応                            | _____ | _____ |
| d) 交叉テスト<br>食塩水法、アルブミン法、プロメリン法、クームステスト  | _____ | _____ |
| e) 造血と血球崩壊に関する物質<br>血清鉄、鉄結合能、血清フェリチン、ビタミンB12、葉酸、<br>エリスロポエチン、*ハプトグロビン、ビリルビン代謝など | _____ | _____ |
| f) 血漿蛋白の定量および質的検査<br>電気泳動法、免疫電気泳動法  | _____ | _____ |
| g) 免疫血液学の諸検査<br>クームス試験、抗血小板抗体、抗核抗体、LE細胞   | _____ | _____ |
| l) 凝固検査<br>プロトロンビン時間、活性化部分トロンボプラスチン時間<br>トロンビン時間                                | _____ | _____ |
| m) フィブリノーゲン、FDP、エタノールゲル試験   | _____ | _____ |
| 3) 治療   | _____ | _____ |
| a) 鉄欠乏性貧血の原因追及・治療（経口、注射）ができる。   | _____ | _____ |
| b) 急性白血病、悪性リンパ腫の化学療法の概略を述べることができる。  | _____ | _____ |
| c) 再生不良性貧血の治療法について述べることができる。  | _____ | _____ |
| d) 輸血（全血、成分輸血、血液製剤、凝固因子濃縮製剤など）の適応、<br>方法、副作用などについて述べることができる。                    | _____ | _____ |

(疾患)

- 1. 貧血性
  - A 1) 急性および慢性の出血性貧血
  - A 2) 鉄欠乏性貧血
  - A 3) 全身性疾患に併発する貧血
  - B 4) 巨赤芽球性貧血
  - B 5) 再生不良性貧血
  - B 6) 溶血性貧血
- 2. 白血球系の疾患
  - B 1) 無顆粒球症
- 3. 骨髄増殖性疾患
  - B 1) 急性骨髄性、リンパ性白血病
  - B 2) 慢性骨髄性、リンパ性白血病
  - B 3) 多血症
- 4. 悪性リンパ腫
  - B 1) 非ホジキンリンパ腫
  - B 2) ホジキン病
- 5. 単クローン性蛋白血症

- B 1) 多発性骨髄腫
- 6. 出血性素因
  - B 1) 血小板減少性紫斑病
  - B 2) DIC
  - B 3) 全身性疾患(例えば肝硬変症)に併発する出血傾向
  - B 4) 血友病

9. 内分泌代謝

G I O : 主要な疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、糖尿病、肥満)の診断、治療、生活指導ができるようになるための能力を身につける。高血糖ならびに低血糖性昏睡の診断と治療ができる。

S B O :

研修医チェック 指導医

- |  |       |       |
|--|-------|-------|
| 1) 以下の検査法を正確に理解し、検査前の準備、検体の採取法を含めて完全に実施でき、結果を解釈できる。                            | _____ | _____ |
| a) 甲状腺機能検査   | _____ | _____ |
| b) 糖負荷試験 (immuno-reactive insulin を含む)、尿中CPR、ヘモグロビンA1C。                        | _____ | _____ |
| 2) 以下の機能検査の主要なものの適応を決定し、指示することができる。間脳、下垂体前葉機能、下垂体後葉、副腎皮質並びに髄質機能など              | _____ | _____ |
| 3) 内分泌腺形態検査法を適切に指示し、主要な変化を指摘できる。頭部単純撮影、エコー (エコーガイド下吸引細胞診を含む)、CT検査、MRI、シンチグラムなど | _____ | _____ |
| 4) 治療  | _____ | _____ |
| a) 補充療法 (甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン) ができる。   | _____ | _____ |
| b) 甲状腺機能抑制療法 (抗甲状腺剤) ができる。   | _____ | _____ |
| c) 高カルシウム血症あるいは低カルシウム血症に対する治療ができる。   | _____ | _____ |
| d) Withdrawal syndrome の診断と治療ができる。   | _____ | _____ |
| e) 糖尿病の食事療法を適切に指示できる。  | _____ | _____ |
| f) 糖尿病の薬物療法ができる。   | _____ | _____ |
| g) e) f) を踏まえて患者指導 (教育) が適切に行える。   | _____ | _____ |
| h) 肥満に対する減量療法を適切に指示できる。  | _____ | _____ |
| i) 高脂血症の治療ができる。  | _____ | _____ |
| j) 痛風の食事および薬物療法ができる。   | _____ | _____ |

(疾患)

1. 下垂体前葉疾患
  - B 1) 末端肥大症
  - B 2) クッシング病
  - B 3) 下垂体前葉機能低下症
  - B 4) フロラクチン産生腫瘍
2. 下垂体後葉疾患
  - A 1) SIADH
  - B 2) 尿崩症
3. 甲状腺疾患
  - A 1) バセドウ病
  - B 2) 粘液水腫
  - B 3) 慢性甲状腺炎
  - B 4) 亜急性甲状腺炎
  - B 5) 甲状腺腫瘍
4. 副甲状腺疾患
  - B 1) 副甲状腺機能亢進症  
原発性、続発性
  - B 2) 副甲状腺機能低下症
5. 副腎皮質疾患

- B 1) クッシング症候群
- B 2) アルドステロン症  
原発性、続発性
- B 3) 副腎不全
- 6. 副腎髄質ならびに交感神経系疾患
  - B 1) 褐色細胞腫
- 7. 糖代謝異常
  - A 1) 糖尿病 (腎性糖尿を含む)
  - A 2) 低血糖症 (インスリノーマを含む)
- 8. 高脂血症
- 9. その他
  - A 1) 痛風、高尿酸血症
  - B 2) アミロイドーシス
  - B 3) 肥満 単純性、症候性

## 2) 外科

### GIO:

- 1) 外科診療上、必要な基本的知識と技術を研修する
- 2) 手術適応の決定と、各種状態下における術前・術後管理を研修する。
- 3) 手術患者、患者家族及び医療スタッフとのコミュニケーションを通じ人間関係、全人的診療の重要性を認識する。

### SBO:

- 1) 基本的外科手技
  - ア) 消毒法、創傷処置、止血法
  - イ) 各種ドレナージ (腹腔内、胸腔内等) の適応と目的
  - ウ) 糸結び、結紮法の習得
- 2) 術前、術後管理
  - ア) 術前管理 (水分、電解質補正、栄養管理、大腸術前準備) (準備)
  - イ) 術後管理 (全身管理、創部及びドレインの処置)
  - ウ) 術式別術後管理 (消化器外科、胸部外科等の手術)
- 3) 術後合併症対策
  - ア) 創感染、縫合糸膿瘍、遺残膿瘍
  - イ) 腹膜炎、腸閉塞症、腹腔内・胸腔内感染症
  - ウ) 縫合不全、消化管吻合部狭窄
  - エ) 腹腔内出血、消化管出血
- 3 研修すべき疾患
  - 1) 一般及び消化器外科
 

乳腺や甲状腺疾患、ヘルニア (鼠径、大腿)、痔・痔瘻等の肛門疾患、虫垂炎、イレウスや腹膜炎等の急性腹症、腹部外傷 消化器悪性腫瘍 (食道、胃、大腸、肝胆膵癌)、腹腔鏡下手術 (胆摘、大腸切除、胃切除)、皮下腫瘍、四肢外傷、下肢静脈瘤
  - 2) 呼吸器外科
 

肺癌、縦隔腫瘍、自然気胸等
  - 3) その他
 

救急患者に対して、指導医のもとで各種診断法を組み合わせ、早期診断及び治療を行う
- 4 研修すべき診断法
  - 1) 一般及び消化器外科
 

各種消化器造影、各種内視鏡、血管造影、超音波 (腹部、乳腺、甲状腺)、経皮経肝胆管造影 等の検査法の施行と読影診断、腹水・胆汁等の細胞診の検体処理、造影CT及び造影MRIの介助と読影診断
  - 2) 胸部外科
 

気管支ファイバースコープ、気管造影、経皮的肺生検、肺動脈・気管支動脈の血管造影等の検査